

花 3月～5月	キンボウゲ科	
キクザキイチゲ		
<p>落葉広葉樹林の林床などに生育する。高さ10～30cm。花期は3～5月で、白色～紫色の花を一輪つける。キクに似た花を一輪つけることからこの名がついた。</p> <p>春先に花を咲かせ、落葉広葉樹林の若葉が広がる頃には地上部は枯れてなくなり、その後は翌春まで地中の地下茎で過ごすスプリング・エフェメラルの一種。</p> <p>山梨県など複数の都道府県で、レッドリストの絶滅危惧種(絶滅危惧I類)や絶滅危惧II類などに指定されている。</p>		
花 3月～4月	ユリ科	
ショウジョウバカマ		
<p>北海道から九州までの、やや湿った場所に生える。垂直分布が広く、人里近くの田んぼの畦道から高山帯の高層湿原まで生えている。</p> <p>葉は広い線形でなめらか、根本から多数出てロゼット状に平らに広がる。花茎はその中から出て高さは10～20cm、先端に横向きに花が付く。花の色は生育場所によって、淡紅色、紫色、白色と変化に富んでいる。</p> <p>名前は、花が赤いのを猩々(中国の伝説上の動物のこと)になぞらえ、根生葉の重なりが袴に似ていることから名付けられたとされる。</p>		
花 4月～5月	オミナエシ科	
ツルカノソウ		
<p>本州～九州の山地の小陰の湿ったところに生える。茎は高さ20～40cm。葉は対生。羽状に全裂する。越冬中の葉や「ランナー」につく葉は、小さく卵形。葉はカノコソウより裂片の幅が広く、波状の鋸歯がある。花は散房花序につき、白色の直径2mm～3mm程度のごく小さい漏斗型。花のあと、細い走出枝をのぼし、先端に新苗をつくる。そう果には羽状の白色冠毛がある。</p> <p>花の姿、特につぼみの形が鹿子模様に似ているのがカノコソウの由来だが。</p>		